

第6回 夕張シューパロダムモニタリング部会（平成30年2月21日）指摘事項と対応

委員	指摘事項	当日の回答及び対応
泉委員 （部会長）	濁度の計測期間に欠測期間があるが1年を通して計測できないのか。春の融雪出水時の濁度が計測されていないので可能なら早く設置すること。	濁度計は結氷前に撤去している。今後は解氷後に出来るだけ早く設置したい。
岡村委員	侵略的外来種について、フォローアップ調査で対策方法を検討するのでは遅い。早期に対応することが効果的であり、そうすることにより最終的にコストも抑えられる。種子がダム湖に入ると下流河川にも供給され拡散することも考えられる。	調査結果を踏まえて対策を検討すると共に、可能な対策を実施する。
	貯水池内の残置樹木は、当初は樹種や樹齢により差が出ると予想していたが、結果はどうだったのか。	常時満水位以下の樹木については樹種に関わらず全て枯れている。常時満水位以上の樹木については冬季に一時的に冠水したが樹種にかかわらず枯れていない。
中井委員	管理棟から見た湖面は景観的に良いが、一般の人は入れないのか。また、視点場に設定していなかったのか。季節毎に定点写真を撮影し、水位データと共に整理しておくことよい。	視点場として設定しており、駐車スペースや管理棟1階の資料室から見ることも可能である。季節毎の定点写真を撮影し、有効に活用したい。
	アンケート調査について、家族の場合一般的に男性が回答することが多く回答に偏りが出るので男女比が同程度になることが望まれる。単純に家族だけでは無く、構成や誰が回答したか等データを残しておくことが重要。	これまでの調査でも偏った結果とならないように注意しているが、今後のフォローアップ調査でもアンケートを実施する際には留意する。また、構成や回答者についてもデータを残すよう留意する。
松井委員	ダムができて変わったことを、良い面や懸念されることも含めて、一般の人にも簡単にわかるように簡単な資料としてとりまとめること。	来年度の最終とりまとめについてもホームページ上で一般に公開するので、良い面、悪い面についても記載する。
眞山委員	ダム貯水池が大きくなったことで水位変動の影響が相対的に少なくなったこと、また湖岸部に残置樹木があることによりコイ科魚類等の水生動物にとって良い環境となったと考えられる。また、水温躍層の形成で冷水性の魚の生息範囲も広がり、魚種相が多様化するなど良い影響がみられるが、今後、濁水の影響や、湖岸の残置樹木の状況など注視が必要。	今後も樹木の立ち枯れ状況などにも注視し、フォローアップ調査を行っていく。また、残置樹木の影響についても他のダム事業の参考となるよう情報共有する。
	水国調査に入ってから、ニホンザリガニのフォローがしっかりできるように、生息環境が良さそうなダム湖上流の流入河川部の調査地点設定時に留意して欲しい。	調査地点設定の際には留意する。

当日欠席委員の事前説明時の指摘事項と対応

委員	指摘事項	当日の回答及び対応
岩佐委員	ダム湖の拡大による水際の環境の変化に影響を受けやすい徘徊性甲虫類（オサムシ、ゴミムシ類）などの好湿地性の種の生息状況に留意すること。	今後の調査の留意点として記載する。
柳川委員	猛禽類は繁殖状況をしっかりチェックすることを河川水辺の国勢調査へ引き継ぐこと。	今後は河川水辺の国勢調査で確認していくこととし、来年度に調査の詳細を調整していく予定である。